

独立無線第七小隊部隊略歴

日 月 日	概 要
昭一六、八、五	桐原原にて編成
二二、一〇	釜山出發
一七、七、二	坂口支隊に属し「ボルネオ」「デヤバ」作戦参加 「ブナ」「ニューギニー」上陸 主なる作戦行動
二二、三	南海支隊「モースビー」作戦に参加
一八、一、一〇	「ブナ」確保作戦参加（ヤ四十五固定協定）
五、四	「ラバウル」に於て戦力恢復
二八	「マタン」に於て通信に任ず
一九、八、二	「カラソプ」岬に於て通信に任ず
二〇、九	一部通信を與池しつゝ自活へ「アルン」「ハンダラ」
二一、一、四	復員完結 損耗状況

昭一九、九

「ブナ」作戦

食糧断絶期に於ける米穀失調及「マラリア」

(備考) 右の外豆穀及「マラリア」に依る損喪は地域及時期の如何を問わず

全期に亘り不鮮に多発せり、

感状賞詞

賞詞

「ニユギニ」全作戦箇の通信に対し(霞三郎属として)

部隊長

大尉 飯塚 英二 栃木県那須郡湯津上村大字佐良六十八

中尉 武井 武志 長野県岡谷市西坂九二九〇

第二十三野戦防疫給水部部隊略歴

年月日	概要
昭和三十三 一八、三	「バルピン」にて編成 南東軍防疫給水部第六部隊東京赤坂区 釜山出發 着洲警備及「ビルマ」作戦参加 「ハンサ」「ニムーヤニー」上陸 主たる作戦行動 先遣隊一五〇名「ニムーヤニー」(主カ「パラオ」に残り爾後予十四師団(照)の指揮下に行動す(留守業務照) 「ハンサ」に於て防疫給水及防疫勤務 「ハンサ」撤収「ホルランヂヤ」に何う、隊長時と大尉以下約一〇〇名は、十九年四月二十二日既に「アイタベ」を過ぎありしを以つて爾後行方不明。「ウエワク」地区に残りし爾余の主力は、「ウエワク」予百十七兵站病院配属 予百十二兵站病院に転属爾後予二十師団と共に入り自給及「サクサク」供給輸送に任ず 機転状況 野上大尉以下の「ホルランヂヤ」戦連人員
昭和三十三 一九、三	
昭和三十三 三、六	
昭和三十三 七、五	
昭和三十三 八、一	

昭一九、九

一九四三

食糧断絶期以後の米穀欠調及「マラリア」

へ備考）石の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず

全期に亘り不斷に多発せり。

野上 経大尉 行方不明

沢田 一郎軍曹 岐阜県岐阜市森野一色八七〇一 爾後の代理

第二十五野戦防疫給水部部隊略歴

年月日	概
昭一六、七、三	「パルピン」にて編成 関東軍防疫給水部大阪陸軍病院大阪府堺市
一八、九、二	釜山出発 前哨警備及び食料作戦参加
元	「ウエワク」「ニューギニー」上陸 主なる作戦行動
一九、四、一〇	「ウエワク」に於ける防疫及防疫給水勤務
四、一〇	部隊主力「ホルランデヤ」に戦進時後方不明、未だ「ホルランデヤ」に到着せずして「アルソー」附近にて全滅せるものの如し、
八四	「ウエワク」に残りし新兵中尉以下三名はヤ百十七兵站病院長の指揮下に入り病院勤務
九	山南自酒地に入り「クミンダグン」「ムシヤグン」等の地域に於て自給及診療業務を実施しつゝ停戦となる（二一旅大林部隊長指揮下）
三、三、七	復員完結
一九、九	損耗状況 食糧断絶下に於ける栄養失調及「マラリア」（備考）右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず

外
東二子

服一九、四三

全期に亘り不断に後発す、

部長 山口 杜一 医少佐 行方不明

新井 宗隆 中尉 山口県紋市呉服町三丁目 岡島勝美方「ウエワク」

部長

第三十七野戦兵器廠部隊略歴

年月日	概	要
昭八、三、三〇	名古屋に於て編成	
四、三	九州佐伯港出発	
五、一	「ウエワク」「ニアギニー」に陸地点 主たる作戦行動	
五、一〇	本部「マダン」支廠出張所を「シオ」「エリマ」「マダン」「ロング」復 「ハンサ」「ウエワク」「ホルランデマ」に附設軍の「マダン」以東作戦に 応ずる兵器補給修理業務	
五、二四	本部を「ウエワク」に移し「ブーツ」「アイタペ」に支廠増設	
五、二五	「アイタペ」作戦更に「マルデツプ」支廠推進担送を併せ行い軍の作戦に即 応	
五、二九	本廠「ウエワク」支廠「ブーツ」及「マルデツプ」遠征準備及自若	
五、三〇	遠征決戦（爆薬火具の現地自活及兵器弾薬の山南搬入）	
五、三六	主力は「ウエワク」地区地上戦	
五、三六	復員完了	

昭一
九一
九

主なる損害の発生時期地点及原因
食糧断絶期以後に於ける栄養欠陥及「マラリア」等に此の間に於ける本然葉
務遂行

「アイタペ」「ホルランヂヤ」支廠の損害

(備考) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず

全期に亘り不断に多発せり。

一八
二二
三

部隊長名 中佐 梶山美介 救出

大佐 江島熊六 生還 佐賀縣唐津市大字唐津二三四一

第二十七野戦貨物廠部隊略歴

年月日	概
昭和十八年三月三十一日	新倉にて編成 西野五の部隊 福岡県久留米市
三月三十一日	釜山出発
五月一日	「ウエワク」「ハンサ」「ニューギニー」に配属 主なる行動作戦
六月一日	本部「マタン」支廠出張所「シオ」「エリマ」「マブルグ」「アレキシス」 「ハンサ」「ウエワク」「ブーツ」「ホルランジヤ」に展開
七月四日	本部「ウエワク」に移し「ボーイキン」及「アイタベ」に支廠出張所
八月五日	支廠を「マルデッポ」に推進し単攻連部隊の補給に任ず 此の間「ウエワク」本廠は多くの分隊作業を併行す
九月十九日	「ラインボ」に本部を移し「ウエワク」及「ボーイキン」に支廠山南に自居機 点を構成するの外「マルボーズ」(農科)「ウエワク」(製造廠)「バコ ン」(「サクサク」)「ムシユ島」(魚類)「セピック」(出張所)に一部を配 置して軍の現地自居を容易ならしむ
八月二日	山南移動敷直準備
	損耗状況

駐一九、九

食糧断絶以後の栄養失調及「マラリア」特にこの間の救済

「ファイタベ」及「ホルランジヤ」支隊の機転

(補足) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は抛弾及時期の如何を問わず

全期に亘り不斷に多発せり、

感状賞詞

賞詞 現地材料に依る薬用「アルコール」製造に對し、

部隊長 主大佐 小泉清一 戦死

主大佐 中村仁次 戦死

主大佐 山田吾一 戦死

八、二二

一二三

一九、六四

五外 東ニ一

第二十七野戦自動車廠略歴

年月日	概	要
昭八、三、三	姫路に於て編成(新成)	中隊五十四部隊 岡山県姫路市
三、六	釜山出發	
五、一	「ウエワク」「ニューギニー」に上陸	
五、一	主なる作戦行動	
五、一	本部「アレキシスト」支隊出發所「エリマ」「マダン」「ハンサ」「ウエワク」「ホルランジャ」に展開し「マダン」以東作戦に即応す。	
五、一	本部を「ウエワク」に移し「ブーツ」「アイタペ」「ホルランジャ」に支隊増設し本態勢を以て「アイタペ」作戦に即応す。	
五、一	主力ヲ二十師団長の指揮下に於て「マプリオク」南方地区に戦進自若及「サクサク」供出(一部(約二〇〇))はヲ五十一師団に配属(「ウエワク」)	
五、一	ヲ四十一師団の指揮下に入り山嶺戦闘	
五、一	復員完結	
五、一	損耗状況	
五、一	食糧断絶期以後に於ける栄養失調及「マプリア」併に此の間に於ける機動「アイタペ」「ホルランジャ」支隊の損害	
五、一	(備考)右の外空襲及「マプリア」に依る損害は地獄及時節の如何を問はず	

大東ニ

全期に亘り不斷に多発せり。

独立自動車第二十二五中隊部隊略歴 (猛ニハ六ニ)

年月日	概	要
昭三、九、五	宇都宮に於て新成	東部第四十四部隊 栃木県宇都宮市
一〇天	芝浦出発	
一八、七、〇	「マライ」方面作戦参加	
	「ウエワク」 「ニューギニー」上陸	
	主なる作戦行動	
九、五、七〇	「ウエワク」 兵站基地輸送業務	
九五	「アイタペ」 作戦へ「グリーン」 「リニオク」 間輸送	
二〇、八、〇	「ホイキン」 「ツイ」 「マミンダグン」 地区に於て自衛及警備	
二二、一、七	復讐完結	
	損耗状況	
一九、九	食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」	
	(備考) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及隊員の如何を問はず	
	全期に亘り不断に多発せり	
	部隊長 大尉 横田 清	静岡県駿東郡富士岡村大字神山

第四十八野戦道路隊部隊略歴

年月日	概要
昭一六、八八	金沢（東寧）に於て編成
一八、二、四	釜山港出発
四、三	「ハンサ」・「ニューギニー」に陸地転 主たる作戦行動
一五、四、四	「ハンサ」・「ウリガン」間自動車道の構築補修
一五、八、五	「ポイキン」に位置し道路の補修及軍需品の搬送（猛害作戦）
一六、八、九	「ポイキン」附近に於て自若奮闘二〇四月以後激戦戦斗
三、一、一七	復員完結
一六、九	損耗状況 食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」 「ポイキン」附近の激戦戦斗 （備考）右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず 全期に亘り不断に多発せり、
一六、六、二八	大佐 伴野英二 戦死 大尉 島崎 洋 富山県中新川郡魚津町 爾後の代理

16外 表二二

患者輸送第四十八小隊部隊略歴

年月日	概 要
昭一六、八	名古屋に於て編成
一八、二、六	釜山出発
六、天	「ウエマク」「ニューギニー」上陸 主たる作戦行動
一六、五、六	「ウエマク」を根拠とし前方は「ハンサ」後方は「ペラオ」及「ボルランジヤ」間の舟艇又は船田による患者輸送、此の間取扱大千名
九、八、六	「アイタペ」作戦（「マルチッポ」「バラム」両患者輸送）
二〇、八、八	「リニホク」附近に於て現地自衛 「ヤニ十師団衛生隊長の指揮の下に「ボイニン」「バワン」「アイン」「ミン ダ」等の地区にて自衛警備。
一九、九	損耗状況 「アイタペ」作戦中の患者輸送、 食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」 （備考）右の外空襲及「マラリア」に依る損傷は地域及時期の如何を問わず 全期に亘り不断に多発せり
一九、一〇、七	部隊長 少佐 高村清次郎 戦死

部長 中尉 岡所章一 山形県南村山郡上山町殿経町四八〇 爾後の代理

0984

独立工兵第三十三連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一八・三・二	豊橋に於て解散	
三・三	宇岳巻出迄	
四・二	「ハンサ」「ニューギニー」と陸	
	主なる作戦行動	
九・四	「フイニステル」山系自動車道構築	
三・九	「フインシハーフェン」作戦（二十師団配属）	
一・九・五	「フインシ」より「マダン」「ハンサ」を経て「ウエワク」へ途中「ハ」号	
	作戦（「ガリ」戦進）	
八・五	「アイタペ」作戦（二十師団配属）	
二・九	「ブーツ」地区警備	
二・八・二	山南地区警備及戦斗	
二・一・三〇	復員迄	
	損耗状況	

0985

昭一九、九	「フインシハーフェン」作戦（主として後方推進） 「ハ」号作戦（「ガリ」取進）（難路及食糧不足） 「アイタペ」作戦（戦斗） 食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」 （備考）右の外至義及「マラリア」に依る損害は地味及麻酔の如何を問はず 全期に亘り不斷に多発せり。
一九、三、四	部隊長 中佐 村と 村 取出
二一	少佐 鈴木重嗣 戦死
二〇、一〇、三	大尉 竹山武夫 戦死

第五十四兵站地区隊部隊略歴

年月日	概	班
昭和十八、四月二二	篠山にて解散	
一八、五、二	半島出發	
一九、三、七、二〇	以後「ハンサ」及「ボルランジヤ」	
一八、七、三〇 八、三〇	主なる作戦行動	
一九、三、三	兵站地区隊長の指揮する約六五〇、「バンザ」上陸後次「マダン」に前進	
一八、三、九	「マダン」「ホーライ」間の兵站勤務担任	
四	この間他の主兵力約一〇〇名は「ホルランジヤ」に上陸し「ホルランジヤ」	
三	及「アイタベ」(長本部附竹中佐)の兵站地勤務	
七五	地区隊長は「ホルランジヤ」に駆進、同地区隊を指揮せるも、	
二、一、二七	敵の上陸に会し「サルミ」に駆進大部死傷す「アイタベ」部隊約(四〇〇)も玉砕。	
	「マダン」に残りたる部隊百九十四「マダン」徹収「アイタベ」作戦参加。	
	担送に任し爾後四十一所野と共に自活及進退をなし停戦に至る	
	復員完結	
	損耗状況	

0987

64. 三ノ一

「ホルランジャー」「アイタベ」部隊の西方戦進（食糧の不足及敵の防害）
「マタン」部隊は「アイタベ」作戦間の祖送及爾後食糧断絶期に於ける米穀
失調及「マラリア」

（備考）右の外空襲及「マラリア」に依る損害は旭城及時期の如何を問わず
全期に亘り不断に多発せり。

部隊長 大佐 石津経吉 大阪府堺市新成町西二丁目 庄選

大尉 本田好春 “ “ 錦之町二ノ二 “マタン” 部隊指揮官

患者輸送第七十四小隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一八、五、九	堺市に於て編成	
六、六	宇品本港	
七、五	「ハンサ」「ニムトギニー」上陸	
	主なる作戦行動	
五、四九	「マダン」を根拠とし「マダン」「ハンサ」間の舟艇による患者輸送	
八、六	「アイタペ」作戦（ヤナオ兵站病院の指揮下に入り「バラム」に於て業務援助）	
二〇、三九	山南戦進不可態なりしにより「バラム」に於て自若、此の間二名を除き全部死没（ヤナオ十一所田配属）	
八、四	残存二名は「ヌンボク」軍司令部勤務	
	損耗状況	
一八、九	食糧断絶期の栄養失調及「マラリア」（傷者）右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地味及時期の如所を問わず	
一八、一二〇	全期に亘り不断に多発せり、部隊長 大尉 向井文右 戦病死	

野戦高射砲第六十六大隊部隊略歴 (猛六〇三九)

年月日	概	要
昭六、八、六	加古川に於て編成	
同日	早岳出發	
一〇、一七	「ホルランヂヤ」上陸	
十九、四〇	「ホルランヂヤ」防空戦斗	
大四	「ホルランヂヤ」より「サルミ」へ戦進	
二〇、八六	「サルミ」地区の警備	
	損耗状況	
	「ホルランヂヤ」より「サルミ」への戦進(食糧不足及「マラリア」)	
	「サルミ」地区の警備(食糧不足及「マラリア」)	
	(備考) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず、	
	全期に亘り不斷に多発せり、	
一九、八九	部隊長 少佐 河村心市 戦病死	

分 外 表

第四野戦輸送司令部部隊略歴

年月日	概	要
昭八、四、三〇	堺に於て編成	
五	牢岳出發	
五	「ウエワク」 「ニューギニー」上陸	
五八	「パラオ」待機同日出発 「ニューギニー」に何う途中毎々 主なる作戦行動	
九八	「パラオ」より「ニューギニー」に何う輸送途中着水後の攻襲を受け大部戦 死	
一〇、五	遂次補充せらるゝ人員を以て「ウエワク」に於て再編成	
一九、四	「ウエワク」に於て勤務及整備	
八五	「アイタベ」作戦（後方輸送の司令部）	
二〇、四	「アレキサンダー」南側自若及襲撃（ヤ四十一師団配給）	
八五	「ロピック」河畔の警備（庄下支隊指揮下）	
二一、二	復員完結	
二二、二	損耗状況	

昭一八、九、八

一九、九

一八、九、八

三、〇、三

進進へ残存者下士官以下四名

食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」特に此の間の特徴

(備考) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず

会断に亘り不断に多発せり、

部隊長 大佐 坂本松太郎 「パラオ」より「ホルランダヤ」に向う途中戦

死

少将 岩切義一 戦死

0992

患者輸送第七十五小隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一八、五、九	堺にて編成	
六	辛島出港	
七、五	「ハンサ」・「ニューギニー」上陸	
	主なる作戦行動	
九七	「ハンサ」附近に在リ「ハンサ」―「マダン」―「ウエワク」間の患者護送	
三〇	「マダン」・「シオ」間の最前線患者舟艇護送	
一九一	「ウエワク」―「ドイキン」附近患者護送	
八六	「アイタペ」作戦（「ソナム」）附近患者輸送	
二〇、一九	ヤ四十一師団衛生隊の指揮下に入り「ソナム」附近に於て自恙しつゝ、戦況に 在じありしが二十年一月頃全滅	
一九、九	損耗状況	
	食糧断絶下に於ける栄養失調及「マラリア」	
	（備考）右の外生養及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず 全期に亘り不断に多発せり	
一九、九、四	部隊長 大尉 越天勝光 戦死	

野戦機関砲第三十五中隊部隊略歴 (昭和六十七年)

年月日	概要
昭和八、八、九、四、五	大阪(加古川)に於て編成 半信収容 「ホルン・イン・ジヤ」「フニヌー・ギニー」上陸 主なる作戦行動 「ブーツ」地区防壁戦 「ブーツ」西側「バラム」附近海軍整備 「バラム」附近戦闘戦斗 ミニ 全員玉砕 損耗状況 食糧断絶下の栄養失調及「マラリア」 「バラム」玉砕戦斗 (備考) 右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず 全期に亘り不斷に多発せり 部隊長 大尉 東田辰雄 戦死
昭和九、三	

0994

野戦機関砲第三十六中隊部隊略歴 (猛 六。七九)

年 月 日	概 要
昭一八、八、六	大阪(加古川)に於て締交
九、四	半田巻収発
一〇、六	「ホルランジャ」「ヒューズニー」上陸 主なる作戦行動
一九、五	「ウエワク」防空戦斗
八、六	「アイタペ」作戦(後方担送及警備)
二〇、九	嶺山附近海岸警備
八、二	「ミッシンホーム」附近警備
	損耗状況
一九、九	「アイタペ」作戦の後方担送 食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」 (備考)右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不斷に多発せり
二〇、四、六	部隊長 大尉 岡島正彦 戦死

0995

野戦機関砲第三十七中隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十八年八月十七日	疾松に於て編成 宇品出発
八月二十四日	「ホルランデヤ」「ニューギニー」と陸 主なる作戦行動
八月二十七日	「ウエワク」防空戦
一九四〇年四月二十五日	「カラサイ」島（「ボイキン」沖）警備
四月二十四日	「ボイキン」附近地上戦に参加
八月二十五日	「クヤゲン」地区の警備
一九四九年	損耗状況 食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」 「ボイキン」附近地上戦 （備考）右の外空襲及「マラリア」に依る損耗は地味及肺病の如何を問わず 全期に亘り不断に多発せり 部隊長 大尉 渡江 幸 福岡県八女郡上里村大字取田四一二 庄盛

0996

独立野戦照空第一中隊部隊略歴 (巻六〇八一)

年 月 日	概 要
昭一八、一、八	名古屋に於て編成
一、三	宇岳出発
二、四	「ウエワク」「ニューギニー」上陸
一、三	主なる作戦行動
二、八	「ウエワク」防空戦
二〇、八	「ウエワク」地区整備及整地
一九、九	損耗状況
二〇、五、六	食糧断絶期に於ける栄養失調「マラリア」特に同期間に於ける地上戦斗 (備考) 右の外空襲及び「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問ひ ず全期に亘り不断に多発せり
	部隊長 大尉 大谷 庫夫 戦死 中尉 高橋 榮三 京都市中央区小川通餅菓所と本能寺 爾後代理

0997

野戦高射砲第六十五大隊部隊略歴 猛第六〇九九部隊

年月日	概	要
昭一八、七、六	加古川に於て解散	
七、〇	卒出	
八、八	「ハンサ」「ニユーギニー」と陸	
	主なる作戦行動	
一九、五、八	「ハンサ」防空戦及地上警備	
八、六	「アイタペ」作戦後方拒送及警備（「ブーツ」）	
二〇、三、九	「ブーツ」地区警備（200指揮下）	
八、三	山南地区遠征	
	「アイタペ」作戦に於ける拒送	
一九、九	食糧断絶期以後に於ける栄養失調「マラリア」特に此の間の稼働並に地上戦へ備へ右の外空襲及「マラリア」に依る損傷は地域及時期の如何を問はず	
二〇、五、一〇	全期に亘り多発せり	
	部隊長 中佐 渡辺誠右 戦死	
	大尉 斎藤松左衛門 神奈川県鎌倉市小町五八鎌倉アパート三九号	
	戦後の代理	

20外 東ニ

第十八軍才百十二兵站病院略歴

年月日	概	委
一八三六	善通寺に於て編成	
一八三六	宇品港出発	
一八四三	「ハンサ」にニューギニー上陸	
一八四三	「ハンサ」及「コシヤノール」に於て病院開設	
一九五五	「ボイギン」に転進し同地に病院開設	
一九五五	才二十師団に属し山南地区転進病院開設「サクサク」供出相送	
二〇七五	「ウイトベ」附近敵撃戦中「才四十一師団」配属	
二〇八五	主となる損害の発生時期地災及原因 食糧漸絶期以後の栄養失調及「マラリア」 特に右期間の山南転進	
昭和十九九月	「備考」右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不漸に多発せり	部隊長 田中佐 山口宗次 豊橋市花町百北八七 生還

オ百十三兵站病院略歴

年月日	概	要
昭一八、八、九	善通寺に於て編成	
一八、八、十	宇品港出発	
一八、十、四	オ一半部「ウエック」	「ニューギニー」上陸
一八、十、七	オ二半部「ホルランヂヤ」	
	主なる作戦行動	
一八、十、十	オ一半部オ二半部共「ホルランヂヤ」に集結	
一八、十、月	「ホルランヂヤ」に病院開設	
一九、四、月	「ホルランヂヤ」より「サルミ」に向い転進	
一九、七、月	「サルミ」地区警備及一部患者収療	
二〇、八、月	主なる損傷の発生時期地災及原因	
	一、「ホルランヂヤ」より「サルミ」への転進（食糧不足「マリア」）	
	二、「サルミ」地区の警備（食糧不足「マリア」）	
	「備考」右の外空襲及「マリア」に依る損傷は地域及時期の如何を問はず	
	全期に亘り不斷に多発せり	
	部隊長名	一、大佐 陣内 朽宗
		昭一九、六、一三 戦病死

シ内東ニユ一

え、医大尉 成田芳夫 昭一、九 戦病死
3、医大尉 湯浅昌巳

徳島県那賀郡加茂谷竹爾後代理生還

オーニ七兵站病院略歴

年月日	概要
昭、一八、三、七	久留米 久留米陸軍病院 福岡県久留米市
一八、三、三	内司
一八、六、〇	「ウエワクレ」 「パラオ」經由特別状況なし
一八、七月	「ウエワクレ」(松の岬及佐久良森附近)に病院開設比の期間取扱患者一四七名
二〇、五月	森永軍医大尉以下に大名庄下支隊(「セピツク」)え配属
一九、三月	
一二月	
二〇、五月	「ウリングケン」及「ウエモンゴ」附近警備
八月	
二〇、六月	森軍医大尉以下五〇名を特設診療班として「セピツク」櫻兵団(オニ七玉碎兵団)に派遣
一九、九月	食糧断絶期以後の栄養失調及マラリア 「備考」右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不斷に発生せり

外東ニ

野戦高射砲才五十八大隊才一中隊部隊略歴

猛才七四六〇部隊

年 月 日	概 要
昭二七、二、二五	京城 朝鮮才二十六部隊 朝鮮防空才四二連隊朝鮮京城
一七、二、三〇	釜山
一七、三、八	「マダン」敵前に陸
一七、三、一〇	「ラバウル」上陸
一七、三、二五	「マダン」防空戦中
一八、九、月	「アレキシス」防空戦中
一九、二、月	
一九、四、月	「ウエワク」附近警備及遂撃（50指揮下）
二〇、八、月	
一九、九、月	備考 昭和一九三、「アレキシス」より「ウエワク」への行軍 以降食糧断絶期の栄養失調及「マラリア」特に其の間の機動
一九、三、月	「アレキシス」より「ウエワク」への機動 「備考」右の外空襲及「マラリア」に依る損傷は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不斷に多発せり
	部隊長 / 大尉 渡辺尚三 山口県佐波郡石田 下石田勝坂字淵え元郷五三

野戦機関砲第十九中隊部隊略歴

通称号 機オ七四六三部隊

年月日	概
昭一六、七、六	馬山に於て編成
一七、一、一	内司越出給
一八、四、三	「ラエ」にニューギニーに上陸地矣
	主なる作戦行動
一八、四、六	「ラエ」防空地上戦用
一八、九、一	「ラエ」より「サラワケット」山脈「ガリ」を経て「アレキシス」に転進
一九、一、四	「アレキシス」防空及地上警備へ「セク」島へ
一九、一、八	「ウエワク」へ「フロツク」附近地上警備及戦用
	主なる損害の発生時期地矣及原因
一九、九、月	「ラエ」より「ガリ」に向う「サラワケット」越駈進
	以後食糧断絶期に於ける栄養失調
	「マリア」及特に此の間の戦用
	「備考」右の外空襲及「マリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず
	全期に亘り不斷に多発せり
	部隊長 / ハ、佐 川村南海男 広島市尾長町四五二

野戦機関砲才二十中隊部隊略歴

通称号 猛才七四六四部隊

年月日	概
昭一六、八、三六	馬山 朝鮮才七十二部隊 朝鮮馬山村
一七、二、三〇	釜山
一八、七、二五	コラエ
一七、三、一六	コソロモン、コビスマルク、戦参加
一八、七、二五	コラエ、コラモア、防空戦
一八、九、二二	コラエより「サラワケツト」山脈「ガリ」を経て「エリマ」に転進（「マダン」附近）
一九、一、九三	「エリマ」防空戦
一九、一、九九	舟艇掩護として船工部隊に分乗、猛号作戦にも参加す
一九、二、二八	才五十一師団の指揮に属し「セピツリ」下流地区の警備
一九、九、月	「コラエ」より「ガリ」に至る「サラワケツト」越転進 以後食糧断絶期の栄養失調及「アラリア」 労苦多き舟艇掩護（夜間勤務） 感状 昭和十八年才五十一師団配属として「コラエ」「サラモア」作戦に参加し 感状を授与せらる 賞詞 「エリマ」附近防空戦に対し猛号作戦の船工五配属部隊として（戦

(87)

1005

外東ニコ

堅二〇機
部隊長ノ、大尉 梅山英太郎

佐賀県東松浦郡玉島大字谷口

独立野戦高射砲才三十八中隊略歴

年月日	概	要
昭一八、一三	京城	朝鮮才二十八部隊 朝鮮京城
一八、一八	釜山	
一八、二〇	「ウエワク」	
一八、二一	「パラオ」寄港	時刻状況なし
一八、二一	「ウエワク」防空戦	
一八、二一	「ンサ」防空戦	
一八、二一	「ウリニガン」防空戦	
一八、二一	「ウエワク」地区防空及地上警備	
一八、二一	「ウエワク」地区警備	
一八、二一	へ備考	
一八、二一	「ハンサ」より「ウエワク」への機動	
一八、二一	「ランガン」防空戦	
一八、二一	食糧断絶期以後の栄養失調「マリア」及地上戦	
一八、二一	備考「右の外空襲及「マリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず全	
一八、二一	期に亘り不前に多発せり	

賞罰

「ウリンガシ」に於て敵機約四〇機墜降

昭三〇、「ウエワク」に於ける地上戦斗（五一飛大墜属）

部隊長

ノハ大尉 高堂雄一

昭三〇、五、二〇「ウエワク」にて戦死

ス、ク 大川良好

ノ二〇、八、四 戦死

建築勤務中四十九中隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十六年八月一日	奈良市 中部中六十七部隊 奈良県奈良市
八月三、三	釜山
八月四、二	「ハンサ」
八月八、二	パラオ島警備
八月八、二	主力「マダン」各一部「ウエワク」「ハンサ」「ミオ」(中二十師団)位置し建築作業
八月二十、三	主力「ホルランデヤ」に向い転進一部「ウエワク」残置作業実施
八月四、一九六	「ホルランデヤ」より「サルミ」に向い転進
八月七、二、八	「サルミ」地区の警備
八月八、二	復員完結
	「ホルランデヤ」より「サルミ」へ転進へ食糧不足及「マラリア」に備着「右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず全期に亘り不常に多発せり
	部隊長 大尉 堺喜代志 昭和十九年七月二七戦死

オ三十七野戦道路部隊略歴

年月日	概	要
昭一八、三月	高槻 中部オ二十九部隊 大阪府高槻	
一八、三、三五	「サエギレ」港	
一八、六	「ハンサ」	
ハ、六、一九三	「パラオ」に在り道路作業後オ二十四師団隷下にありて「ニューギニー」上陸	
五、四、一九七	「ムギル」地区より「ウエワク」へ	
一九八一、一九九	「アイタペ」作戦へ（担送及道路作業）（ <i>リッパ</i> ）	
一九九一、九、一〇	山南「ポカコロ」地区に前進	
一九二一、二、八	山南「マンバ」地区に前進「ザマ」にて自給及警備	
	「ムギル」より「ボイキン」地区へ機動（若令長距離）	
	「アイタペ」作戦（担送及道路作業）（食糧不足「マリア」）	
	「ウルバン」より山南への機動（食糧不足）	
	備考「右の外空襲及「マリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず全期に亘り不斷に多発せり	
	部隊長 大佐 河崎栄義 昭和一九八、五戦死	
	中尉 伊田秀松 奈良県生駒郡雷雄村三雄	
	欠後代理	

外東ニヨリ

野戦高射砲才五十六大隊部隊略歴

年月日	概 要
昭一六、七末	東京（佳木斯） 東部才七十七部隊東京都世田ヶ谷高射砲才十九連隊（佳木斯）
昭一八、一一	釜山
一八、三、三	「ハンサ」
一八、一、一八	満州警備
一八、一、一八	「ハンサ」防空戦用
一八、一、一八	「マダニ」防空戦用（大隊主力軍直）
一八、一、一八	「ムギル」及「ブナブン」防空戦用（一中隊）
一八、一、一八	「ウエワク」附近警備及邀撃（5ID指揮下）
二〇、三、一〇	復員完結
一九、九月	食糧断絶期以後の栄養失調及「マラリア」
一九、三、一四	「アシマンス」ウエワク間機動
	「備考」右の外空襲及「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず
	全期に亘り不斷に多発せり
	部隊長 大佐 佐々木敏生 昭二〇三頃「ウエワク」に於て戦死
	小佐 渡辺貞一 新潟県西頸城郡歌外波村大字歌隊長代理

野戦機関砲才二十九中隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一七、二、元	東京（佳木斯）	東京才七二部隊（高射砲才十九連隊）東京世田谷
一七、二、五	釜山	
一八、一、	「ラエ」	
一八、一、八	「ラエ」上陸迄に約一ヶ月「ラバウル」にあり	
一八、九	「ラエ」附近並防空戦	
一八、九、六	「ラエ」東側「ブス」河口の地上戦中隊長以下大部玉砕せるも敵を裏退す	
一九、一、九	「サラワケツト」山脈及「マダン」を経て「ハンサ」へ	
一九、一、三	「ハンサ」防空	
一九、一、三	「ウエワク」	「ボイギン」
二、四、二、八	「ボイギン」	「ツイ」
	「ラエ」	「ブス」
	「サラワケツト」	越転進し栄養失調
	以後食糧断絶期の栄養失調及「マリア」並に全期向戦	
	「備考」右の外空襲及「マリア」に依る損害は地域及時期の如何を問わず	
	全期に亘り不斷に多発せり	
	感状「ラエ」	「サラモア」作戦に關し（特に昭十八九「ブス」河口の戦い）

オセチヤ兵站病院部隊略歴 (編四六一四)

年月日	概
昭一六、八、一	金沢に於て編成
一六、八、一七	神戸港出発
一九、六、一五	「ホルランデヤ」にニューギニーに上陸地を 至なる作戦行動
一九、一、五	「ホルランデヤ」に病院開設
一九、四、一六	「ホルランデヤ」より「サルミ」に転進
一九、七、二八	「サルミ」地区の警備 「備考」に「ニューギニー」に上陸せるは主力にして一部は「パラオ」に残り 転属せらる
	主なる損傷の発生時期地災及原因 「ホルランデヤ」より「サルミ」への転進(食糧不足「マリア」) 「備考」に右の外空襲及「マリア」に依る損傷は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不斷に多発せり 部隊長 ノ、中佐 佐藤征夫 昭和十九年五月六日「デムタ」戦死

外東ニユ一

独立自動車第三十九大隊部隊略歴

年月日	概	要
昭和十六、十八	金沢に於て編成	
一七、二二天	出発	
一八、四	「ハンサ」に「ニギギニ」上陸	
一八、四、一四	主なる作戦行動	
	「ハンサ」兵站地及「ハンサ」マダン間の陸上輸送	
	一部「マダン」に進出し「マダン」局地輸送	
	同右の同一部は「ウエワク」兵站地輸送勤務	
一九五、一九六	「ウエワク」兵站局地輸送	
一九二、一三四	「ウエワク」現地自居及警備	
二〇五、一三八	「ウエワク」地区邀撃	
二一、一、一七	復員完結	
一九、九月	主なる損害の発生時期地災及原因	
	以後食糧断絶期に於ける栄養失調及「マラリア」	
	「ウエワク」邀撃戦中	
	「備考」右の外空襲「マラリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず全	
	期に亘り不斷に多発せり	
	部隊長 中佐 中里隆臣 東京都杉並区西高井戸一ノ一四四生還	

陸上勤務才七十六中隊部隊略歴

年 月 日	概 要
昭一六、七、一四	松本に於て編成
一八、二、二六	釜山港出発
一八、五、二三	「ウエツクル」「ニューギニ」上陸 主なる作戦行動
八五、一、四	「ハニサ」兵站基地にアラリア道路補修揚陸その他の兵站地勤務及飛行整備 作業
一八、一、二九	「アイタベル」作戦へ「ソナム」附近担送作業
一九、一、二〇	わ四十一師団の指揮下に入りて山南に転進し自衛及邀撃
二一、一、二四	復員完結
一九、九、月	主なる損害の発生時期地災及原因 「アイタベル」作戦の担送作業（食糧不足） 食糧断絶期以後の栄養失調及「マリア」特に此の間の機動 「備前」右の外空襲及「マリア」に依る損害は地域及時期の如何を問はず 全期に亘り不斷に多発せり

部隊長 大尉 河原信三 長野県長野市大字長野機校町生還

通稱号 中四六四六部隊

(99)

外用二二

3、大尉 長谷川小屋
父、大尉 柴田光好

昭和二〇、四、一四 戦病死
昭和二〇、六、二〇 戦死

代理 商俊宮坂中尉
代理

(100)

1018